

三河の昆虫

No.10 1975年5月

〒448 刈谷市井ヶ谷町
愛知教育大学昆虫研究室
三河昆虫研究会 発行

第一プリント社 印刷

☎ ◯564 ◯24463

また始った農薬の空中散布

大 平 仁 夫

農薬の空中散布は、害虫を倒す効果よりもその農薬によって殺される天敵や無数の関係のない小動物、土壌や河川の汚染、皆殺しにされるその地域の生態系のバランスの破壊などによって、そのあとにはかり知れない悪影響があることは、すでに明らかになっていることである。それにもかかわらず、近く岡崎や豊橋でもマツノマダラカミキリの防除のために山林の空中散布が行われようとしている。聞く所によれば、農薬（スミチオン乳剤）

は散布するが、その後の継続調査はしないということであるから、実際に効果があったのかどうかもわからないわけである。大体、責任が持てないような行為に税金が使われるというのは無駄使いである。私たちは、空中散布が実施された場合、それぞれの専門分野の立場から、その効果と悪影響について調査を進め、その責任の所在を明らかにして行かねばならないと思う。

電灯に飛来した蝶5種の記録

村 松 津葉沙

電灯に飛来した蝶については、ヒメウラナミジャノメ、サトキマダラヒカゲ、ルリタテハ、アオスジアゲハなどの観察例がありますが、私も若干の例を観察したのでここに報告します。

1. ヒメアカタテハ

採集日：1♂，1973年8月17日。

採集地：愛知県北設楽郡豊根村坂宇場。

自宅の電灯に飛来している本種を午後8時40分頃に観察しました。この標本は、鱗粉転写して保存してあります。

2. キアゲハ

採集日：2♂，1970年8月（日時は不詳）。

採集地：愛知県北設楽郡豊根村坂宇場。

自宅の窓ガラスに、蛾類と混って止っているのを観察しました。2頭いましたが両方とも雄でした。なお、この標本は私の不注意のため保存してありません。

3. キバネセセリ

採集地：北海道網走郡天都山。

採集日：1頭（性不詳），1974年7月26日。
夜の8時19分に蛍光灯に飛来しているのを観察しました。

4. エゾスジグロチョウ

採集地：北海道網走郡天都山。
採集日：1頭（性不詳），1974年7月26日。
夜8時19分に蛍光灯に飛来しているところを観察しました。

5. ヒメジャノメ

採集日：愛知県北設楽郡豊根村坂字場。
採集日：1頭（性不詳），1974年8月29日。
夜の8時30分頃，自宅の蛍光灯のすぐそばの窓ガラスに止っていました。

クツワムシ晩秋の飼育記録

加藤 忠和

1956年9月5日の夜，西尾市伊藤町の家の前でクツワムシが鳴いていたので採集。いつまで生きているのか観察することにした。

9月5日～11月6日：9月5日に採集した茶色系の1雄個体は，その後毎夜のようによく鳴いた。

11月7日～13日：気温がさがってきたためか，急に鳴かなくなる。

11月13日：日中は二階の暖かい場所に，夜は毛布をかぶせる。

11月17日：夜半1時30分頃に久しぶりに鳴く。この日は暖かく，部屋の温度は9度，休む前に部屋を暖めたため23度ほどあった。鳴いたときの温度は19度であった。この日は，キュウリに蜂蜜をぬって与え，カツオブシも与えた。

11月18日～11月26日：鳴かない。

11月27日：夜7時30分頃から5分間ほど鳴く。室内の温度は15度。昼間にキャツを与えたら，ポリポリ音をたてて食べたそうで，そのときの温度は13度であった。夜キュウリに蜂蜜をぬって与えた。

11月28日：夜11時20分頃に鳴く，部屋の温度は18度。

11月29日：夜6時50分頃から30分間ほど鳴く。温度は15度。朝蜂蜜を食べていた。

12月1日：運動が鈍ってきて，食物もとらなくなった。

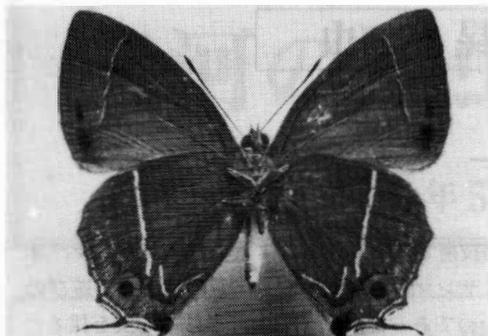
12月3日：死亡した。

クロミドリシジミ愛知県に産する

桜井 邦雄

1974年6月15日，足助町内でクロミドリシジミが竹本秀邦氏によって採集されたので，ここに報告します。本種は愛知県下での採集報告はなかったが，食樹などの関係から，本県に産する可能性が大きかった種の一つである。

採集されたのは新鮮なるの個体が二匹で，他に一匹が目撃された。時期的に早いので，これだけのことからこの地域のクロミドリシジミの個体数の多少は論じられないが，食樹であるクヌギは少なからず見受けられた。採集した時間



は午後2時前後であり、採集された2個体はいずれもクヌギの散在する林の中で、あまり高くない所にいた。目撃の一匹はその林のふちに立つ杉の小木の葉に止まっていたもので、これは私が網を振ったらものみごと逃げられてしま

まった。

6月22日、再度調査に赴いたが、この日は樹上高く舞うゼフィルス類らしきものを見上げるだけで確認はできなかった。今年もまた、足をはこぶつもりであるので、詳しいことが判明したら報告する。自然保護の叫ばれる現在、こうした数少ない昆虫はただその生棲場所を守るだけでなく、それを取り囲む巨大な環境からも守っていかねばならないと思う。こうした立場から、このクロミドリシジミの調査と保護をしてゆきたいと思う。

最後に、同定の確認をしていただいた杉板氏と標本を譲って下さった竹本氏に深く感謝する。

チョウ、トンボの 終見日

加藤 忠和

この観察は、1956年に行ったもので、西尾市伊藤町は家の周りで休祭日に、碧南市のは勤務中や放課後にみかけたものをメモしたもので、常時観察していないので、あまり参考にならないかも知れないが報告する。

種名	西尾市伊藤町	碧南市鷺塚
キチョウ	11月18日	11月5日
モンシロチョウ	11月18日	11月9日
ルリタテハ	11月18日	
ベニシジミ	11月3日	
ウラナミシジミ	10月10日	
アゲハチョウ		10月16日
アオスジアゲハ		10月9日
アキアカネ		11月16日
ナツアカネ		10月14日

(〒445 西尾市 伊藤町宮東4の5)

オオヒョウタンゴミムシ 岡崎市に分布する

大平 仁夫

オオヒョウタンゴミムシの愛知県における分布は、伊良湖岬が知られているが、私は加藤真也氏が岡崎市の桑原町で得られた2頭の標本を頂いたのでここに記録する。同氏によれば、神社の境内のせまい場所にしか分布していないそうで、どうしてこのゴミムシがこのような場所に分布するようになったのかわからないそうである。

調査標本：2頭、1963年6月と1964年6月に得られた。



私 と 昆 虫

— その9 —

竹 本 秀 邦

現在、私たちの身のまわりには、数知れない程多くの生き物が、互いに共存し合い生活している。昆虫もその一つである。

私が昆虫に興味を持ちはじめた頃は、はっきりしたことは定かではないが、小学校一年生ぐらいの時にはもう、ある方法でトンボを採っていたことは、はっきり記憶にある。自分の両手いっばいに広げた程の長さの糸の両端に、親指のつまみの大きさの石をろう紙に包んでつなぎ、飛んでいるトンボの前に投げるのだ。トンボは、石を何かの餌だと思い、石にめがけて飛んでくる。石には糸がついてタイミングよく、トンボと糸がクロスすれば、糸がトンボの体にまきつき、石の重みで下に落ちる。そこを急いで採る。夕方、少し暗くなった頃が良く、その頃はトンボが餌を求めて飛びかう時である。これは多少

の技術と根気がいるが、大型のギンヤンマ、オニヤンマがかかりやすく、手軽に遊べる遊びの一つであった。その頃は、もちろん虫を採ること自体が遊びで、その他のことは全く頭の中にはなかった。

小学校での夏休みの自由研究といえば、いつも昆虫の標本だった。毎朝、太陽と同時に起き、近くの家や街灯を見てまわり、夜の間に電燈のあかりに引きつけられ、飛んできては下に落ちたカブトムシ、クワガタ、カミキリ等をさがして採るのが、毎日の日課だった。近くには、私と同じような子供達も少なくなく、先をこされまいと競って早く起きたものだった。

小学校も高学年になると、トンボや蝶などの生態にも関心をもち、デパートで買った捕虫網を片手に、沢山の種を集めるのに必死だった。展翅板を使い始めたのも、この頃からである。

中学校に入学し、一年生の夏休みに、いつものごとく蝶やトンボ、甲虫類など、まとめて四箱ぐらいを提出したところ、全く予期していなかった賞状をもらうことになった。その時もらった賞状は、私を昆虫さちがいにさせた一つの要因かも知れない。

今はトンボを専門に蒐集し、研究しているが、何分にもトンボは益虫なので、頭の痛いところである。

私と昆虫との出会いが、いつ始まって、現在に及んでいるかは、わからないとしても、これらも私は、この自然界の驚異者達や、色採あざやかな女神達と、一生つき合っていきたいと思っている。

彼らや彼女らに嫌われない為にも、心ない乱獲をさけ、自然を守り続けなければならないだろう。

